

ストーリー(理由)がある麻織物「ひいろ」

地域の特徴を活用した製品開発の提案

- 地域ならではの特徴を活かしてオンリーワンのデザインソースを具現化
- 欲しいと思わせるような理由(ストーリー)を持つ製品開発
- 企業や産地製品の価値向上につながるプレゼンテーション(提案)

研究のねらい

県内の地域産業では得意とする技術や素材を活用した様々なモノづくりへの挑戦が行われています。そして、企業や産地がオリジナル素材や製品をマーケットやユーザーへ直接提案する機会も増えています。

しかし、飽和状況にあるマーケットやユーザーの目に留まるには、他とは異なる特徴、アピールポイントが必要で。そこで、従来の技術先行型の提案だけではなく、欲しいと思わせるような理由(ストーリー)を持つ製品開発と、企業や産地製品の価値向上につながるプレゼンテーション(提案)について、麻織物産地との共同研究にて検証しました。

研究内容

デザインソースを具現化する: 信楽を舞台にしたドラマの放送が決定し、注目度の高いドラマは地域産業からのメッセージを伝える絶好のプレゼンテーションの機会となります。そこで、ドラマをデザインソースにした滋賀ならではの製品開発を検討しました。

テキスタイルデザインの作成: 実物の陶器の色や信楽焼産地ならではの情報を素にテキスタイルデザインを検討しました。産地内のストック系を有効活用し、地域産業だからこそ出来る多品種小ロットの製品「ひいろ」を作成しました。

プレゼンテーション: 限定販売(数、期間)、ユーザーが選べる色柄バリエーション、ユーザー向けメッセージカードなどを作成しました。また、放送開始日にあわせた販売計画を行い話題性を持たせた他、ドラマ関連イベントのノベルティー製品としても提案しました。

将来への技術展開

好評を得た今回の製品の魅力は素材や価格だけではなく、特別感や背景にあるストーリー、そしてユーザーの体感と共鳴させていることにあります。今後も選ばれる製品となるためのアイデアやデザインソースを具現化し、開発やプレゼンテーション方法とあわせて提案していきます。また、この方法は、企業の製品開発に関わる人材育成としても活用が期待されます。



メッセージカード(ハンカチ用)



ノベルティーとして採用された「ひいろ」製品
(近江の麻ハンカチと信楽焼スカーフクリップ)

滋賀県東北部工業技術センター
線維・デザイン係(長浜庁舎)
小谷 麻理
連絡先: neirc@shiga-irc.go.jp

8 働きがいも
経済成長も



12 つくる責任
つかう責任

